

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2192100150		
法人名	株式会社 共壽		
事業所名	グループホーム 第二江並「福寿苑」		
所在地	岐阜県大垣市外渕4丁目101番地		
自己評価作成日	平成26年7月8日	評価結果市町村受理日	平成26年10月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/1/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2192100150-00&amp;PrefCd=21&amp;Versi.onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/1/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2192100150-00&amp;PrefCd=21&amp;Versi.onCd=022</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成26年8月28日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者様の人権を尊重して、より良い生活が送れるように職員と考えながら日々の仕事をするようにしています。利用者様と職員のストレスがたまらないように考え、外出、外食、行事等の支援には力を入れています。また、テレビ、地域の情報に目を向け、お祭り、お寺参り、花見、夕方のドライブなどをみんなで企画もしています。地域性を生かした、喫茶店への外食や、保育園、中学校、小学校との交流も積極的に行い、穏やかにいつまでもグループホームで生活できるように支援しています。職員として看護師3名がいますので病気の早期発見と早期対応も力を入れています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「利用者が笑顔で安らぎのある生活を送ってもらえるグループホーム」を目指して、職員は利用者の意向を尊重した介護を進めている。利用者に気分転換や季節を感じてもらうため散歩やコンビニへの買い物、レストランや喫茶店での飲食など、日常的に外出支援をしている。保育園、小・中学校との交流や地域の行事にも積極的に参加している。このような外出機会を通じて地域住民との交流が年を追うごとに広がっている。職員のピアノ演奏は、利用者のリクエストにも応え、一緒に口ずさんだり、リズムに合わせて体を動かすなど癒しの時間となっている。また、看護師が3名いることで夜勤者も介護に専念でき利用者には何かあれば、直に協力医との連携、早期対応ができ安心できるホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1度の職員会議時に全職員による運営理念、職員の心得を朗唱している。また朝礼時に利用者が穏やかに過ごしてもらっているか、問いかけながら、理念の浸透を図り、より良いケアにつなげている。	理念について見直しを含め職員間で話し合い検討をした。職員会議や朝礼時に理念が活かされているか問いかけ、理念に基づき実践につなげるよう努めている。入口やトイレ等目のつくところに理念と職員の心得を貼り浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に積極的に出かけることを念頭に置き、施設周辺の散歩、隣にあるコンビニへの買い物、地域の行事(学校の運動会、遠足)の参加を行っている。1階の駐車場にベンチを置き、住民に立ち寄りいただけるスペースを作っている。	保育園、小学校の運動会など地域の行事に積極的に参加したり、喫茶店、コンビニに出かけている。また、運営推進会議を通じて事業所の会議室やベンチの利用を提案しているが、浸透していない。また、地域住民が事業所に遊びに来ることが少ない。	事業所行事のお誘いや駐車場のベンチや会議室の利用を回覧板等でPRするなど、地域住民が利用して、気軽に事業所に立ち寄り、交流を深めるよう検討されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に自治会長、民生委員、駐在所、消防所の方々に参加して頂いている。また、中学校、保育園の先生にも参加をお願いして、地域との連携、総合理解に繋げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隣接する同法人グループホームと合同で運営推進会議を行っている。出席メンバーからは毎回活発な意見が聞かれ、施設の評価、取組み、また地震、台風、地域の高齢者のこと等話し合いを行っている。一体的に生かせるように取り組んでいる。	会議は2か月に1回定期的に実施している。出席メンバーからは活発に意見が出され、防災対策について議論をしているが、結論を得るような突っ込んだ議論をしていない。	会議前に討議するテーマを設定して、メンバーには意見を持って参加してもらい、議論して決議を引き出す会議となるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括、市福祉課担当者と常日頃連絡を取り合えるようにしている。(担当者会議、ケアマネ会議、市役所訪問時)事業所の困りごとがあれば相談に乗ってもらったり、実直に対応をお願いしている	市が企画する会議や研修には積極的に参加している。事業所の現状を説明すると同時に、認知症の対応や薬剤の利用法を指導してもらっている。また、市町村から虐待や在宅生活が困難な人の話し合いにも応じている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議時に身体拘束について学んでいる。また、職員は外部の研修に参加して、後に研修報告を勉強会として発表している。最新の情報はインターネットから取り出し、正しい理解に努めている。	職員会議時には、新聞やインターネットで話題となった情報を取り上げ、身体拘束をしないケアの学習をしている。外部講習の受講報告会もその都度実施している。ソファ、センサーマットを活用し、転倒、転落のリスクを軽減し身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時に研修を必須で行っている。虐待記事や、メディアで取り上げられた事例については、朝礼、職員会議時に話し合いをして意見を述べてもらっている。		

グループホーム 第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、専門講習に参加して、学んでいる。職員には、会議時に資料を用意して、最新の制度の勉強会をおこなっている。それを日々の職務の中で行かせられるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にケアに対する取り組み、医療連携、料金等お話ししている。その場で理解は難しいと思われるので、常に窓口を開き、家族の不安や疑問点があれば対応をできるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様面会時に利用者の様子をお伝えし、意見、要望をお聞きしている。利用者にも常に意見を言えるような雰囲気づくりをしている。よりよい生活が送れるために、運営に反映できるよう努めている。	家族の訪問時には声をかけ、気軽に話せる雰囲気づくりをしている。利用者とは言い易い話し合いの場をつくり、何を食べたい、どこへ行きたいかなどの要望を聞き、献立や外出支援に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の個別面談や適時職員より、意見をもらっている。提案があれば、話し合いを設け、より良い施設になるように、また働きやすい職場になるように考えている。	日常ケアなどについての気づきや意見は、その都度全員で検討し実現している。職員の要望により隣接グループホームの看護師との協力体制の構築、センサーマットの利用により夜勤者の介護が安心して働きやすい環境になった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則やキャリアパスに基づき、職員個々のレベルアップを図りながら、やりがいある職場環境の整備に努めるようにしている。職員の疲労やストレスがたまらないように気を配っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	見学会や外部研修の情報があれば全員に発信して、学びの機会を大事にしている。人間的に知識のアップができるように職域をこえて、いろいろな研修の確保に努めている(医療、リハビリ、レクリエーション)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新設施設内覧会、見学会、グループ事業所との交流を大事にして、勉強に繋げている。また勉強したことを、自施設に持ち帰り、サービスの質の向上につながるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階での面談で安心感を持てるように話に対して親身にうけとめ、本人の持つ困りごと、不安、要望を聞き入れ、少しでも思いを受け止められるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立ち、話を親身に受け止め少しでも気持ちに、落ち着き場所ができるように対応をしている。思いに寄り添う対応に心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思いが同じではない時もありますが、本人にとってより良い場所と家族の気持ちの安らぎを大事に話し合いを重ねていくことに努力しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思い、不安、悲しみ等と日々の暮らしの中で、分かち合い、支え合い、共有できるように努めている。人生の師として教えてもらうことが多いので尊厳を大事に関係を深めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報の共有を行いながら早期に対応できるように、かかわりを持つようになっている。職員から家族にあて、月1度のお手紙や、担当者会議で関係性を深めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族が頼りにしている方の面会や墓参り、長年関わってきた、床屋、定食屋等、家族と外出できるように支援をしている	家族・知人等から情報を集めている。また、会いたい人を家族に伝え、面会に来てもらったこともある。家族と一緒に外出する際には、車いすを貸し出したり、移乗時の注意点を伝え馴染みの場所へ出かけやすいような状況を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に家族という意識を持って、声掛けを行い、誕生日会、歓迎会を行っている。個々の自由な時間を大事にしながらも、かかわりを持ち支え合える支援に努めている。		

グループホーム 第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られた方、在宅に移られた方もケアマネを通じて、関係をたもっている。介護相談にのったり、再入所されたり、継続の支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者会議にて本人の希望をお聞きしたり、常に思いや意向を把握するようにしている。明確に把握できない方もおられますが、家族、知人から情報を収集するようにしている。	新聞記事、チラシ、昔話等から話題を広げ、思いや意向を聞き、担当者会議の記録、介護経過に残している。思いを表現できない利用者の発する言葉や所作の意味を、家族から教えてもらって記録し、全職員が把握してその情報をケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴を知ることにより、環境、行動の意味が分かることがあります。理解をすることで、今を生きる指針となるようにしています。プライバシーに触れないように気を付けています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員には、担当する方の1日の流れを把握するようにして、他職員にも情報を発信しています。小さなことを見逃さずに、出来ることを継続可能に出来るように支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との日頃のかかわりの中で思いや意見を反映できるケア計画にしている。職員会議やモニタリングで出た意見を参考に利用者主体の計画を作っている。	介護記録に、サービス計画の短期目標について実施状況を記録している。介護計画は毎月実施されるモニタリングの結果や介護記録、本人・家族の意向や医師の意見を取り入れ、担当者会議で検討し作成している。状態に変化のあった時や介護度が変更となった時も随時、見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に食事、水分、排せつ、医療面、身体的情報、本人の言葉を記入してすべての職員が確認をすることを義務づけている。また見直しもしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の状況に応じて、病院受診、送迎、外出に柔軟に対応している。		

グループホーム 第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心して地域で暮らせるように警察、消防と意見交換をしたり、訪問美容を利用したり地域資源の情報に耳を片向け、利用ができる取り組みをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日、体温・血圧を測定し異常の早期発見に努めている。体調不良があればかかりつけ医に報告し、早目の対応を心掛けている。	多くの利用者は、歯科、眼科以外はかかりつけ医を協力医に変えている。受診時には看護師が付き添い、受診に至った経過、体調の変化等を医師に伝えている。薬や対応が変更になった場合は、職員や家族に連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護を通して異常がないか常に観察しながら注意している。異常があったり気になることは、直ちに看護師に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、適切な対応がとれるようご家族や病院関係者と連携を密にするよう心掛けている。普段から医療機関とは、良好な関係が保てるよう情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医と連携を図りながら、ご本人様の希望やご家族様の意向に沿うよう支援している。	重度化や終末期になった時には、協力医、家族と相談して対応を検討している。事業所内で看取りを希望される場合には看取りの書面（急変時対応希望書、終末期における誓約書及び同意書）にサインしてもらって実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に、適切な対応が取れるよう、日頃から各自が責任を持って訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成をして、年2回の避難訓練をしている。秋は夜間想定訓練を行い、春は、隣接するグループホームと合同の訓練です、地域の方、家族にも声掛けして消防署の立会で行っている	消防署指導の下、夜間想定を含め避難訓練を年2回実施している。全職員が参加し、歩行できない利用者をシーツで包み、滑り台、階段を使い避難する訓練を実施した。浸水時には、近隣の独居老人の受入をできるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアの中で尊厳を大事にするように職員に常に指導を行い、プライバシーを確保しながら声掛け対応を行っている。自己決定ができるような声掛けに努めている。	利用者のプライドや尊厳を守るため、上から目線や他者に聞こえないよう目立たないよう言葉をかけ、対応について注意している。トイレのカーテンやアコーディオンの使い方を工夫し、中が見えないよう気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の訴えを傾聴し思いが伝わるように取り組んでいる。思いを表出できない方については、いくつかの選択肢を提案して、なるべく自分で決められるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の体調に合わせて、ゆったり過ごせれるようにしている。個別性を大事にしている。「利用者様第一」と職員も周知している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれの好きな利用者様には、身だしなみができるよう、家族と本人と職員が連携を取って支援している。[床屋、化粧品、帽子]		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく食事のできる雰囲気づくりや会話を楽しむゆとりを大事にしている。高齢の方の楽しみの一つとして好みの希望をお聞きしながら食事作りをしている。	利用者の好みの献立や盛り付けを工夫し、誕生日に職員の手作りのケーキを提供している。行事には、たこ焼き・お好み焼きパーティーを行い、外食に出かけることもある。職員も一緒に食事し、見守りや介助しながら頂き物や収穫した食材の話をする等、楽しい食事になるよう心配りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分不足による脱水症状が起きないように、注意している。栄養摂取においては、個々の体調や好みに応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	高齢者において、口腔ケアは重要な役割があるので、毎食後清潔保持に努めている。		

グループホーム 第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンをつかんで、時間ごとのトイレ誘導を行うようにし、排泄の失敗を減らすようにしている。	排泄パターンを把握し、動作を見守り、時間誘導し、トイレでの排泄を促している。立位の不安定な利用者には2人で介助している。水分を取り、体操や外出により腸の働きを良くして、服薬に頼らない排便支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、体操や散歩をして適度な運動を行っている。排便が困難な時は、腹部マッサージをしたり内服にてコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を確認して朝風呂、順番、入る回数等を決定している。衣類の着脱も本人の希望に沿っている。また楽しみの一つと捉え、職員全員が周知している。	機械浴、個浴の設備があり、利用者の身体状況に応じて入浴している。午前・午後・シャワー浴等希望に合わせている。薬草、柚、ハーブ、バスクリン等好みの入浴剤等も使ってゆっくり入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前、午後に体操の時間を作り、生活にリズムを持たせている。また、個々の体調や希望で、休息の時間を取っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調不良時は、かかりつけ医に報告し必要に応じて薬を処方してもらっている。服薬時は、薬の飲み忘れがないよう確認を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活のできることの支援を行っている。お盆拭き、洗濯物たたみ、野菜づくり等。自分らしく生活できるように役割分担を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月の行事を計画して、季節に合った外出、外食支援をしている。散歩は常に天気と体調を見て行っている。歩行困難者は、車椅子やリクライニング車椅子を利用している。地域に溶け込めるように外出支援を進めている。	日常的に車椅子の利用者も一緒に散歩している。神社に参拝したり、保育園で園児とふれあったり、喫茶店に立ち寄りたりすることを楽しみとしている。季節に合わせドライブや花見にも出かけている。	



グループホーム 第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	嗜好品の買い物、雑貨、喫茶店等の外出時には、各自レジ清算をお願いしている。できない方には一部職員がお手伝いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所は常にオープンにして、ご利用者様がいつでも希望を伝えられるようにしている。電話の希望があれば、相手先の希望時間にかけるように取り計らっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には、行事や外食の写真を飾り。楽しかったことを思い出されるようにしている。また、落ち着いた絵画を飾っている。職員が季節に合った飾り付けを行い居心地よい配慮に努めている。	職員のピアノの演奏は、利用者の選曲でゆったり落ち着ける雰囲気を作っている。季節や盆踊り等の行事に合わせた飾り付けがあり、絵画、行事や外食の写真を飾り話題の提供をして良い空間を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ストレスのたまらないように、リビング内でも畳の空間とソファの空間を利用して頂いている。その中で自分の居場所ができ、一緒に過ごせる仲間もできている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族をお願いして、好みの雑誌や人形を持参している。くつろぎのあるお部屋になるように椅子やテーブルも置いていただいている。お気に入りの写真や、誕生日カードもあります。	利用者の好みに合わせて、椅子やテーブル等使い慣れた家具を置いたり、写真、作品、誕生日カード等を貼っている。ポータブルトイレは露出しないよう布で覆ったり、オムツは飾り紙を貼った段ボール箱に収納している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	心身機能の状態を考え、転倒のないように環境整備をしている。自立できるように、職員と本人で検討しながら支援している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100150		
法人名	株式会社 共壽		
事業所名	グループホーム 第二江並「福寿苑」		
所在地	岐阜県大垣市外淵4丁目101番地		
自己評価作成日	平成26年7月8日	評価結果市町村受理日	平成26年10月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=ion_kouhyou_detai_1_2013_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2192100150-00&amp;Pr_efCd=21&amp;Versi_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=ion_kouhyou_detai_1_2013_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2192100150-00&amp;Pr_efCd=21&amp;Versi_onCd=022</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成26年8月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1度の職員会議時に全職員による運営理念、職員の心得を朗唱している。また朝礼時に利用者が穏やかに過ごしてもらっているか、問いかけながら、理念の浸透を図り、より良いケアにつなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に積極的にかけることを念頭に置き、施設周辺の散歩、隣にあるコンビニへの買い物、地域の行事(学校の運動会、遠足)の参加を行っている。1階の駐車場にベンチを置き、住民に立ち寄りいただけるスペースを作っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に自治会長、民生委員、駐在所、消防所の方々に参加して頂いている。また、中学校、保育園の先生にも参加をお願いして、地域との連携、総合理解に繋げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隣接する同法人グループホームと合同で運営推進会議を行っている。出席メンバーからは毎回活発な意見が聞かれ、施設の評価、取組み、また地震、台風、地域の高齢者のこと等話し合いを行っている。一体的に生かせるように取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括、市福祉課担当者と常日頃連絡を取り合えるようにしている。(担当者会議、ケアマネ会議、市役所訪問時)事業所の困りごとがあれば相談に乗ってもらったり、実直に対応をお願いしている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議時に身体拘束について学んでいる。また、職員は外部の研修に参加して、後に研修報告を勉強会として発表している。最新の情報はインターネットから取り出し、正しい理解に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時に研修を必須で行っている。虐待記事や、メディアで取り上げられた事例については、朝礼、職員会議時に話し合いをして意見を述べてもらっている。		

グループホーム 第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、専門講習に参加して、学んでいる。職員には、会議時に資料を用意して、最新の制度の勉強会をおこなっている。それを日々の職務の中で行かせられるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にケアに対する取り組み、医療連携、料金等お話ししている。その場で理解は難しいと思われるので、常に窓口を開き、家族の不安や疑問点があれば対応をできるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様面会時に利用者の様子をお伝えし、意見、要望をお聞きしている。利用者にも常に意見を言えるような雰囲気づくりをしている。よりよい生活が送れるために、運営に反映できるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の個別面談や適時職員より、意見をもらっている。提案があれば、話し合いを設け、より良い施設になるように、また働きやすい職場になるように考えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則やキャリアパスに基づき、職員個々のレベルアップを図りながら、やりがいある職場環境の整備に努めるようにしている。職員の疲労やストレスがたまらないように気を配っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	見学会や外部研修の情報があれば全員に発信して、学びの機会を大事にしている。人間的に知識のアップができるように職域をこえて、いろいろな研修の確保に努めている(医療、リハビリ、レクリエーション)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新設の施設内覧会、見学会やグループ事業所との交流を大事にして、勉強に繋げている。また勉強したことを、自施設に持ち帰り、サービスの質の向上につながるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階での面談で安心感を持てるように話に対して親身にうけとめ、本人の持つ困りごと、不安、要望を聞き入れ、少しでも思いを受け止められるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立ち、話を親身に受け止め少しでも気持ちに、落ち着きの場所ができるように対応をしている。思いに寄り添う対応に心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思いが同じではない時もありますが、本人にとってより良い場所と家族の気持ちの安らぎを大事に話し合いを重ねていくことに努力しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思い、不安、悲しみ等と日々の暮らしの中で、分かち合い、支え合い、共有できるように努めている。人生の師として教えてもらうことが多いので尊厳を大事に関係を深めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報の共有を行いながら早期に対応できるように、かかわりを持つようになっている。職員から家族にあて、月1度のお手紙や、担当者会議で関係性を深めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族が頼りにしている方の面会や墓参り、長年関わってきた、床屋、定食屋等、家族と外出できるように支援をしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に家族という意識を持って、声掛けを行い、誕生日会、歓迎会を行っている。個々の自由な時間を大事にしながらも、かかわりを持ち支え合える支援に努めている。		

グループホーム 第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られた方、在宅に移られた方もケアマネを通じて、関係をたもっている。介護相談にのったり、再入所されたり、継続の支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者会議にて本人の希望をお聞きしたり、常に思いや意向を把握するようにしている。明確に把握できない方もおられますが、家族、知人から情報を収集するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴を知ることにより、環境、行動の意味が分かることがあります。理解をすることで、今を生きる指針となるようにしています。プライバシーに触れないように気を付けています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員には、担当する方の1日の流れを把握するようにして、他職員にも情報を発信しています。小さなことを見逃さずに、出来ることは継続可能になるように支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との日頃のかかわりの中で思いや意見を反映できるケア計画にしている。職員会議やモニタリングで出た意見を参考に利用者主体の計画を作っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に食事、水分、排せつ、医療面、身体的情報、本人の言葉を記入してすべての職員が確認をすることを義務づけている。また見直しもしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、病院受診、送迎、外出に柔軟に対応している。		

グループホーム 第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心して地域で暮らせるように警察、消防と意見交換をしたり、訪問美容を利用したり地域資源の情報に耳を片向け、利用ができる取り組みをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日、体温・血圧を測定し異常の早期発見に努めている。体調不良があれば、かかりつけ医に報告し、早目の対応を心掛けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護を通して異常がないか常に観察しながら注意している。異常があったり気になることは、直ちに看護師に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、適切な対応が取れるよう、ご家族や病院関係者と連携を密にするよう心掛けている。普段から医療機関とは、良好な関係が保てるよう情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医と連携を図りながら、ご本人様の希望やご家族の意向に沿うよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に、適切な対応がとれるよう、日頃から各自が責任を持って訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成をして、年2回の避難訓練をしている。秋は夜間想定訓練を行い、春は、隣接するグループホームと合同の訓練です、地域の方、家族にも声掛けして消防署の立会で行っている		

グループホーム 第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアの中で尊厳を大事にするように職員に常に指導を行い、プライバシーを確保しながら声掛け対応を行っている。自己決定ができるような声掛けに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて、声掛けを行い、個性を大事に希望や思いを把握できるように全職員取り組んでいる。意思表示ができない方も、表情や熱心に傾聴することにより、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせた、一日の流れをもとに、「楽しく穏やかに」を職員のモットーに考えている。、体調等配慮しながら希望に寄り添っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時に着る洋服選びから、ヘアセット用品等を家族と本人が考え、職員は見守りや一部支援を行っている。女性の方が多く、おしゃれは気持ちをパワーアップするので特に気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは利用者様の希望を取り入れ、季節感があるものを提供している。職員と一緒に会話を楽しみながら召し上がっていただいている。できることは、手伝ってもらって、雰囲気作りもしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分不足による脱水症状がおきないように注意している。栄養摂取においては、個々の体調や好みに応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	高齢者において、口腔ケアは重要な役割があるので、毎食後清潔保持に努めている。		



グループホーム 第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンをつかんで、時間ごとのトイレ誘導を行うようにし、排泄の失敗を減らすようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、体操や散歩をして適度な運動を行っている。排便が困難な時は、腹部マッサージをしたり、内服にてコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に寄り添いながら、楽しく気分転換のできる入浴を行っている。夏場は汗もかくので、なるべく多く入っていただくようにしている。拒否のある方には、声掛け、チームプレイで支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを考えて、本人の要望や体調により午前、午後の休憩をしている。日中は体操や散歩で活動量を増やし、夜間じっくり就寝できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調不良時は、かかりつけ医に報告し必要に応じて薬を処方してもらっている。服薬時は、薬の飲み忘れがないよう確認を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	認知症の方でも各自がさまざまなことができるを持っているので、できる支援をしている。野菜作り、洗濯ものたたみ、掃除を通じて、自分らしい生き方ができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別性を大事に、要望に沿うようにしている。買い物、散歩、外食を通じて、生き生きとした姿が見られている。歩行困難な方の支援も車椅子の貸し出しを行ったり、ナース同行もしている。		

グループホーム 第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	嗜好品の買い物、雑貨、喫茶店等の外出時には、各自レジ清算をお願いしている。できない方には一部職員がお手伝いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所は常にオープンにして、ご利用者様がいつでも希望を伝えられるようにしている。電話の希望があれば、相手先の希望時間にかけるように取り計らっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、トイレは皆で使用するものであるため、臭いに気を付けて、環境整備を行っている。畳の部屋では、自宅と同じように使ってもらうため、居心地良さを重点に、季節に合った花を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内に二つのソファがあり好きな場所で自由に使ってみえます。仲良しの方と隣同士に腰掛けられたり、畳の空間では、お向かいに座られたり、また一人になりたくて、窓側で椅子に腰かけられていたり要望にあった支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家族と相談して、趣味のもの馴染みのものを持ってきていただいています。居心地良く過ごすためにテーブル、いす、テレビ、タンスを希望どうりに配置されています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を重点にできることを見つけ、安全、安心、安らぎのある、環境づくりを行っています。手すりは二段設置して車いす用と、歩行者用とで使い分けしています。		